



## 新年のご挨拶

東栄町長 村上 孝治



新年、あけましておめでとございませう。町民の皆様方におかれましては、平成28年の新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、旧年中は、町の行政運営に對しまして、深いご理解並びに多大なご協力を賜り、心から感謝し、厚くお礼を申し上げます。

私は昨年の4月、町民の皆様への温かいご支援と厳肅な信託を賜り、町政運営に当たらせていただくこととなりました。

町長就任以後、初めての新年を迎え、今後の町政のかじ取り役を預かる責任の重さを痛感しているところであります。早いもので、町長就任から9か月になるつとじています。

昨年は町制施行60周年というつとじて、節目の年として、永年にわたり町政発展のためにご尽力された8名、2団体の方に特別表彰を贈らせていただきました。また、現在作成中の記念誌を皆様にご配布をさせていただきますとじています。

さて、回復の兆しが見えた景気も、その恩恵を地方が実感できるつとまでではなく、国と地方の財政状況は、依然として厳しい状況にあります。当町においても、今後の公共施設の老朽化対策、特に病院の建設、そして役

場庁舎建設、不用品遊休施設の解体なども行わなければなりません。また多額な地方債（借金）の返済なども控えています。一貫して住民の皆様へ訴えてまいりましたのは、厳しい財政状況の中、「将来への明確なビジョンの再構築」、「積極的な情報公開」、そして「真の協働による住民自治のまちづくり」であります。

何よりも大切にしていらっしゃるの皆さんとの「対話」であります。昨年は、地区別行政懇談会（キャッチボールトーク・意見交換）を町内10会場で開催させていただきました。また、「住民の声を町政に」として、いつでも皆様のご意見やご要望をいただき、皆様との話し合いを重点的に進めてきました。

今年はお聞きした声を積み上げ、皆さんの不安を少しでも払しょくし、「しあわせを実感できるまち」の実現に向け、着実に前進を実現してまいります。

町政を進める上で欠かせないのが、東栄町の進む方向性を示す道しるべである「総合計画」です。年度内には第6次の計画を策定する予定で作業を進めており、しっかりと根付かせ、かつ浸透させなければならぬと考えています。

これらを進めるために重要なのが、町民参加による合意形成であり、そのために「まちづくり基本条例」を制定します。

平成28年度は新しい総合計画及びまち・ひと・しごと総合戦略を実行に移す年であり、町への人の流れを活発化するために、観光協会の設立や道の駅構想を含めた三遠南信道東栄インターチェンジ周辺プロジェクトを進めていきます。

定住対策としての「賃貸後譲渡型住宅整備」や「定住促進空き家活用住宅」のさらなる推進若い世代が安心して暮らせるための「子育て支援」の充実や認定子ども園の検討をしていくつとにも、東栄病院の整備については、夏までには一定の方向性を示したいと考えています。

また、地域の事情に応じた暮らし対策をすばやく実行するため、役場内に地域支援課を設け、職員が地域に出向き、対応します。このつとも含め、役場の機構改革により、課の再編を行い、4月からスタートしたいと考えています。

町政運営は、町民の皆様、そして町議会と相互に協力しあつと中で、推進していくつとであります。一つ一つの課題を確実に解決していくつとで、東栄町は新しく生まれ変わることができると思います。

本町の発展に、引き続き全身全霊を尽くしてまいりますので、皆様の変わらぬ温かいご支援お力添えを賜りますつとお願い申し上げます。結びに、新しい年が皆様にとりまして、希望に満ちた幸多い年となりますつと心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさつと致します。